

進捗状況報告シート

(2011年度・大学)

担当部局は ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	商学研究科
大項目	5 学生の受け入れ (研究科)
中項目	
小項目	5.0.1 学生の受け入れ方針を明示しているか。
要素	求める学生像の明示 当該課程に入学するにあたり、修得しておくべき知識等の内容・水準の明示 障がいのある学生の受け入れ方針
小項目	5.0.2 学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集および入学者選抜を行っているか。
要素	学生募集方法、入学者選抜方法の適切性 入学者選抜において透明性を確保するための措置の適切性
小項目	5.0.3 適切な定員を設定し、学生を受け入れるとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。
要素	収容定員に対する在籍学生数比率の適切性 定員に対する在籍学生数の過剰・未充足に関する対応
小項目	5.0.4 学生募集および入学者選抜は、学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に実施されているかについて、定期的に検証を行っているか。
要素	

II. 自己点検・評価(2010.5.1~2011.4.30の進捗状況報告)

《目標・指標》

本項目において、2009年度~2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の評価を行っている。

進捗評価はA~Dの4段階とし自ら評価した。A~D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 内部からの進学者のみでなく、広く学外入学者、内部・外部からの留学生、他研究科からの入学者を受け入れる。	→学内外を対象として春学期・秋学期に各2回ずつ開催している入試説明会の告知方法の多様化、参加人数の増加。		A			
2. 定員充足率を高める。	→充足率。		B			
3. 専門職業人の養成を教育目標のひとつとして教員が意識を共有する。	→教育コンテンツや卒業生のキャリア等についての情報共有の促進とそのための機会提供。		B			
			☆			
2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

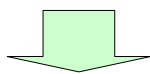
(その他の指標データ)
 入試形態別志願者数、受験者数、合格者数、入学者数と割合【大学基礎データ】
 地域別志願者数、受験者数、合格者数、入学者数と割合
 科目等履修者の入学者数
 聴講生の入学者数

★ 追加データがあれば追加してください。

◎**効果が上がっている事項** ※目標の進捗評価が「A」の場合は必ず記述してください。

《点検・評価(1)》**効果が上がっている事項** 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

小項目5.0.1	アドミッション・ポリシーを研究科委員会において議論し、決定した。ポリシーを今後、適宜必要に応じて各種文書等に明記する。(意見交換後、削除。IV. 追加記述参照)
小項目5.0.2	2010年度入試より導入されたように、入学試験願書の書式変更を通じて、志願者が希望する指導教授と研究内容等について事前に面談を行うことを徹底させ、入学後の学生と指導教授との研究内容に関する齟齬が生じないよう工夫を図った。
★小項目5.0.3	在籍者数は、前期課程、後期課程ともに安定的に増大している。
小項目5.0.4	2010年度春学期入試より継続して、商学部全演習科目、および入門科目等でチラシを配布し、またWEB上でも告知機会を増やすなどしたことによって、とくに低学年(1、2年生)を中心に参加者が増加した。(意見交換後、削除。IV. 追加記述参照)
その他	



《次年度に向けた方策(1)》**伸長させるための方策**

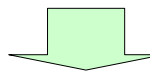
注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

小項目5.0.1	アドミッション・ポリシーの具体的な成果を外部にPRする。
小項目5.0.2	2010年度入試より導入された入試受験生が希望する指導教員と事前面談を行う方式が受験生にも好評であることから、その方式を継続する。
★小項目5.0.3	入学者数の確保という点ではここ数年成果を挙げているので、今後は、研究能力・専門知識を高めたいという学習意欲と能力に優れた大学院生を多く獲得し、教育効果を高めていくようシフトする。受験倍率が上向きとなるよう目指す。
小項目5.0.4	同じ学部内から本研究科への進学を目指す学生を増やせるよう、大学院教育を受けるメリットを強調できるアピールの場を設ける。WEBから告知する回数を増やし、一案として教員の紹介コーナーを設けるのも有力なPRとなる。(意見交換後、削除。IV. 追加記述参照)
その他	

◎**改善すべき事項** ※目標の進捗評価が「D」の場合は必ず記述してください。

《点検・評価(2)》**改善すべき事項** 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

小項目5.0.1	
小項目5.0.2	
★小項目5.0.3	
小項目5.0.4	
その他	



《次年度に向けた方策(2)》**改善方策**

注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

小項目5.0.1	
小項目5.0.2	
★小項目5.0.3	
小項目5.0.4	
その他	

◎**自由記述**

《点検・評価》&《次年度に向けた方策》

★ その他 (自由記述)	受験者数を増大させるとともに、受験倍率を高め、質の高い入学者を得ることを第1の方策とし、次いで、博士課程後期課程への進学者数を定員に近い人数で確保することが第2の方策となる。そのためには、本研究科のスタッフの研究や教育に関する外部からの評価を高めることが鍵となる。
--------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

Ⅲ. 学内第三者評価

＜評価専門委員会の評価＞

【学外委員】

○2011年度の合格者数が増加していることは評価されます。但し、収容定員に対する在籍学生数比率が前期課程で73.3%と低下傾向にあり、後期課程は53.3%に上昇したものの未だに5割強の水準にとどまっており、一層の充実が求められます。

【学内委員】

○志願者数、入学者数の確保にいかに関心を注いでいるかがヴィヴィッドに伝わってくる記述内容です。

○現状説明の小項目5.0.4は「定期的な検証」についての説明になっていません。「効果が上がっている事項」の小項目5.0.4も同様に、項目の内容とは関係のない記述になっています。いずれも修正の必要があります。小項目5.0.2と5.0.3については、指標データも引用して、もう少し詳しく説明してください。

○明示については、大学基準協会は基盤評価を「公的な刊行物、ホームページ等によって、学生の受け入れ方針を、受験生を含む社会一般に公表していること」としています。これに沿った説明が求められます。

○大学院の学生確保は商学部だけでなく、また関西学院だけでなく難しい問題です。小項目5.0.3については、教育効果から適正だとされていますが、そうであれば入学定員の問題にも繋がります。あくまで、現状では、大学基準協会の留意事項に沿った管理が求められます。評価指標データなどを使った説明も必要でしょう

○小項目5.0.4の説明内容の多くは「検証」についての説明ではありません。改善すべき事項における同項目についても同様です。整理が必要です。

○改善すべき事項の小項目5.0.1、後半は今後のことですから方策に記述されることでしょうか。

【大学基準協会：評価に際し留意すべき事項】

○小項目5.0.1

基盤評価：「理念・目的、教育目標を踏まえ、求める学生像や、修得しておくべき知識等の内容・水準等を明らかにした学生の受け入れ方針を、学部・研究科ごとに定めていること」「公的な刊行物、ホームページ等によって、学生の受け入れ方針を、受験生を含む社会一般に公表していること」

○小項目5.0.2

基盤評価：「学生募集、入学者選抜の方法が、受験生に対して公正な機会を保障し、かつ大学教育を受けるための能力・適性等を適切に判定するものであること」

○小項目5.0.3

基盤評価：「【学士】学部における過去5年の入学定員に対する入学者数比率の平均が1.00である（※）」
(略)

「【学士】学部における収容定員に対する在籍学生数比率が1.00である（※）」
(略)

「【学士】学部における編入学定員に対する在籍学生数比率が1.00である（※）」
(略)

「【修士・博士・専門職学位課程】部局化された大学院研究科や独立大学院などにおいて、在籍学生数比率が1.00である」

○小項目5.0.4

基盤評価：なし

達成度評価：「検証を実施する体制を整備し、責任を明確にするなどしたうえで、学生の受け入れの適切性について、恒常的かつ適切に検証を行っている」

○小項目5.0.1～5.0.3

達成度評価：「学生募集、選抜の実施状況等は、公正・適切なものである。（評価に当たっては、当該大学の説明・証明から、下記のことから明らかであるかに留意する。）

- ・学生の受け入れ方針と、学生募集、選抜の方法等の整合性
- ・学生の受け入れを適切に行うための必要な体制の整備

Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

《現状の説明》小項目5.0.1への追加記述

「またホームページや履修案内等によって、受験生を含む社会一般に公表、周知している。」

《現状の説明》小項目5.0.2の説明の記述を削除および変更

「アドミッションポリシーに基づき学生を募集し、選抜している。学生の受入を適切にするため、出願前に出願者は指導教員と面談し、希望と受入体制について確認することとなっている。筆記試験では、商学研究科の教員が幅広く出題し、出願者の専門分野を選択できるようになっている。また口頭試問は3名の教員により複数評価を行い、最終的に研究科委員会において筆記試験、口頭試問の結果を明示し、客観的な観点から公正に審議・選抜する体制が整備されている。」

★

《現状の説明》小項目5.0.4の記述を削除および修正

「各入試終了後の研究科委員会において、入試制度、募集、選抜が適切に実施されたか議論し、定期的に検証している。」

効果が上がっている事項 《点検・評価（1）》小項目5.0.1の記述を一部削除

効果が上がっている事項 《点検・評価（1）》小項目5.0.4の記述を削除

効果が上がっている事項【次年度に向けた方策（1）】小項目5.0.4の記述を削除